

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

生涯の絆を育む板野中学校の人権・部落問題学習③ ～気軽に部落の人間と言える社会に～

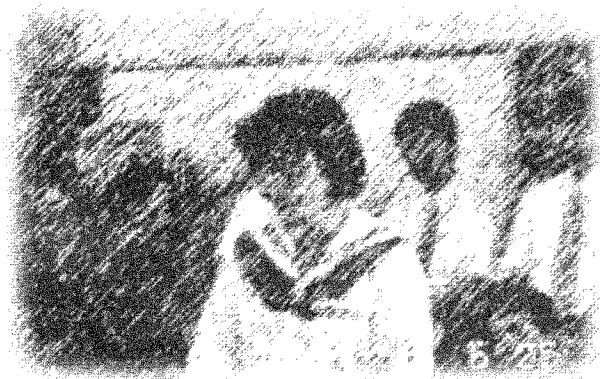
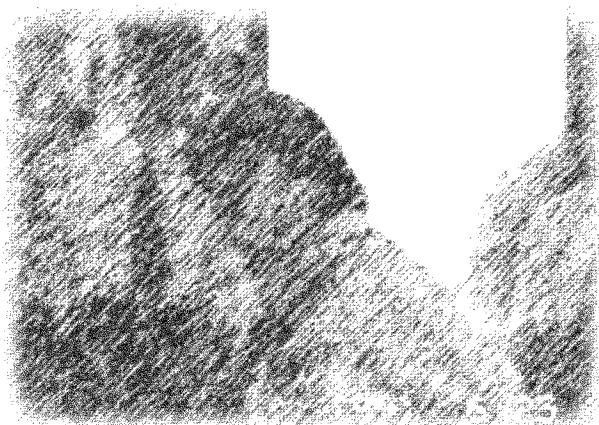
部落問題を「わがこと」として語り合う仲間の姿は、一人ひとりの心を大きく揺さぶっていきます。

それまで部落差別に関わる家族の発言に無関心であった生徒が、自分の無知、愚かさに気づいていきます。そして、「今」「ここ」で自分にできることは何なのか、一人ひとりの自問自答が始まります。



こみ上げる気持ちを吐き出すK・Uの語り

まだ発表もできないでずっと座っているだけなのに、みんな信じてくれて発表してくれるのに、自分はこんなことしよっていいんだろうか。このクラスの子を信じて発表してくれるのにこんなことしよっていいのかと思いました。



溢れる思いをひたむきに伝えるK・Tの語り

私も部落出身ですけど、泣いている子を見たら泣いてほしくありません。そして、その泣いている外側だけを見てほしくありません。

悲しみが深いから涙が出てきて止まらないんだけど、この悲しみや苦しみがわかっている友だちがこのクラスにいっぱいいるし。本当は今、泣きたいんだけど、涙をこらえています。

部落差別に寄せる思いを伝えるS・Nの語り

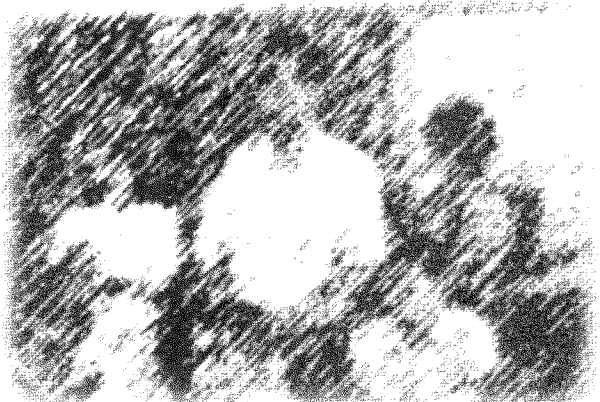
私はちょっと前に、まだ全体学習が始まって少ししかたっていない時に、ある友だちから部落出身じゃということ打ち明けられて、なんとなくわかつたんだけど、本人から聞いてその子泣いていたし、ショックだった、夜とかあまり眠れなかったんだけど、そのことを打ち明けて涙を流している子を見たら、腹が立ってきて、こういうふうにしてその子をここまで追いやる差別を許せないと思います。

部落を自覚した家庭訪問のことを伝えるH・Iの語り

僕も部落の人間です。今までこのクラスにもそのことをわかってくれる友だちはいないと思っていたけど、「みんないいなあ」と思いました。

森口先生に家庭訪問の時に「お前は部落の人間だ」と言われた時、自分には差別意識がないと思っていたけど、実際にありました。それで、この授業では泣かないと思っていたけど泣いてしまいました。

これからこれをバネとして部落解放の道に進んでいって、気軽に部落の人間と言えるような社会をつかっていきたいです。



H・Iの家庭訪問の時に、私は、部落問題を語りました。その時の言葉を通して、H・Iは自分が部落出身であることを自覚します。部落問題を「わがこと」として、ともに語り合った家庭訪問は、私たち二人の人生を大きく変えていきます。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」
うずしおブランチ共同代表 森口 健司